# 次回の定期演奏会をちょっと予習

山野雄大

©Rowland Kirishima

©Makoto Kamiya

## 第204回定期演奏会「フィンランドの景色」

2024年5月31日(金)18：00開場　18：45開演
愛知県芸術劇場コンサートホール
指揮/大友直人 ヴァイオリン/辻彩奈*
シベリウス：ヴァイオリン協奏曲 ニ短調 Op.47*
シベリウス：交響曲第2番 ニ長調 Op.43

セントラル愛知交響楽団は、ここにまた新しい記憶を刻みはじめます。―― オーケストラも私たちも長らく慣れ親しんだ三井住友海上しらかわホールにお別れを告げて、今季からは定期演奏会の会場をここ、（こちらもおなじみではありますが）愛知県芸術劇場コンサートホールへ移しての開催となります。そして、我らがマエストロ角田鋼亮の音楽監督就任‥‥本日もいよいよ熱のこもった音楽をお楽しみいただいていることと思います。

さて、次回・第204回定期（5月31日）には、日本オーケストラ界を確かに支え磨き続けてきたマエストロ大友直人をお迎えします。大友さんが幅広いレパートリーのなかでも幾度も取り上げてこられた北欧の作曲家・シベリウスの人気作品、ヴァイオリン協奏曲と交響曲第２番‥‥という直球のプログラム。

ヴァイオリン協奏曲の独奏には、気鋭の名手・辻彩奈さんをお迎えするのも楽しみなところです。セントラル愛知響とはこれまでもご縁を重ねていますし、鮮やかな美音と確かな音楽性で賞賛を集めてきた辻さんですから、今回もきっと素晴らしい音楽を響かせてくださるでしょう！

### ◆怜悧の先に燃えるもの ―― 名手・辻彩奈を迎えるシベリウス〈ヴァイオリン協奏曲〉

不思議なことに、北欧フィンランドの音楽と日本のクラシック音楽ファンとの相性はとても良いようで‥‥とりわけ、20世紀前半にかけて活躍した大作曲家、ジャン・シベリウス（1865～1957）の人気は根強いものがあります。

森と湖の国・フィンランドの大自然を想わせるような清冽で抒情的なサウンド、息の長いメロディと自在な構造感覚から生まれる、澄んで深い音世界‥‥しかし、そこに轟く情熱がひらいてゆく遙かな深淵もまた、シベリウスの魅力と言えましょうか。

彼が独自の語法を磨きぬいた後期、どこか人智を超えた深みに触れるような傑作群も美しいですが、次回定期でお聴きいただく青年期の人気作たち ―― ヴァイオリン協奏曲と交響曲第２番、魂の震えるような繊細さから、地平の彼方まで視界をひらいてゆくような壮大さまで、まっすぐに心をつかみ、深くしみてくるその音楽は、とりわけ愛されてきました。

次回定期の前半でまずお聴きいただくのは、ヴァイオリン協奏曲 ニ短調 作品47（1903年／05年改訂）。シベリウス自身が、若い頃にはヴァイオリニストを目指し、ウィーン・フィルのオーディションを受けたほどの腕前でしたから（人前で演奏すると極度にあがる人だったそうで、演奏家としての道は諦めてしまいましたけれど）、最初に書き上げられた楽譜は途方もなく難しいものでした。のちに少しだけ弾きやすく改訂されておりますが、それでも超絶技巧を駆使した難曲です。

とはいえ、テクニックを明るく華麗に披露し続けるコンチェルト、ではありません。技巧的に高度なソロが続くのは間違いないのですが、その神秘的な森のさざめきを聴くような冒頭からして、研ぎ澄まされた技術をもって音楽性の高みを極めてゆくことが要求される種類の難曲、と言えましょう。ロマンティックでありながら、そこに耽溺するというより、哀しく冷たい抒情を厳しく磨き抜いた先に、熱い情感が揺らめくような‥‥。吹き抜ける風に肌の熱さを知るような、素晴らしい傑作コンチェルトです。

次回定期で、辻彩奈さんをこの曲の独奏にお迎えできるのは、ファンのかたにも嬉しい機会でしょう。―― 辻さんは18歳の2016年、モントリオール国際音楽コンクールで日本人として初優勝、併せて5つの特別賞も受賞するという快挙を成し遂げて一躍世界の注目を集めました。そのモントリオールでの決勝で弾いたのが、シベリウスの協奏曲だったのです。

優勝時のライヴ録音がそのままメジャー・デビュー・アルバムとして発売された［ワーナー・クラシックス］のですから、この曲はまさに辻さんの名刺。いま録音を聴いてもなるほど圧巻の優勝が頷けるデビューから、経験を重ねたいま、シベリウスの音世界にどんな新しい視界を拓いていらっしゃるのか、楽しみなところです。

筆者も3月に日本フィル定期で、辻さんが独奏をつとめたシマノフスキのヴァイオリン協奏曲第1番（辻さんご自身がぜひと望んで選曲されたとききました）の演奏を聴いたばかりですが、精緻に描きこまれた幻想美、その色彩感が時の流れを絶妙に制

御するような表現、見事でした。セントラル愛知響との次回共演も、ぜひお楽しみに。

## ◆壮大な時の流れ、魂の風景の彼方へ‥‥シベリウス〈交響曲第２番〉

次回定期の後半は、同じくシベリウスの交響曲第２番 ニ長調 作品43（1901年）です。

作曲家の代表作として愛される本作、澄んで晴れやかな明るさと、幻想的な陰りとが巧みに交差もするその音世界は、北欧の抒情と捉えられることが多いですし、たしかにシベリウス独特の語り口に溢れた音楽には、森と湖の国フィンランドに生まれ育った人ならではの何かが響いているでしょうけれども‥‥そんなイメージだけにとらわれて聴く必要もありません。

たとえば、実はこの曲、シベリウスが南国イタリアへ旅行した折に、着想がどんどん沸いて書き進められた作品である‥‥と知ればイメージも変わりますでしょうか？（変わらなくとも、はたまた違和感を覚えても、それは聴くかたの自由ですけれども）

緩徐楽章に現れるテーマ、そこに重ねられたキリストのイメージですとか、イタリア滞在中に受けたインスピレーションが大いに反映しているというこの交響曲第2番 —— それでも〈シベリウスらしさ〉は揺るがずに響きます。フィンランドの風景でもなく、はたまたイタリアの陽光でもなく‥‥。なにか具体的な風景や物語をこえた、魂の光景、といったものまで飛翔してゆく音楽、なのかも知れません。

この曲は全4楽章を通して、ベートーヴェンの交響曲第5番もちょっと思わせるような〈暗から明へ〉という大きな流れを持ち、壮大なフィナーレへとひらかれてゆきます。豊かな起伏を経てその輝かしい終結へと向かってゆく巨大なエネルギー、時の流れのスケール感‥‥といったものは、生演奏に包まれてこそ、より良く体感できるものでしょう。

最近は、シベリウスに関して読みやすくも深い書籍が出版されておりますので、交響曲第2番がどのようにして書かれ、その背景にどんなものがあるのかもご興味あるかたは、ぜひお読みいただきたいと思います。

シベリウス研究の権威として知られる神部智さんが、分かりやすくも豊かな情報と鋭い考察を重ねた『作曲家◎人と作品シリーズ　シベリウス』［音楽之友社、2017年］をはじめ、同社から刊行されているシベリウス作品の総譜には神部さんによる詳しい楽曲分析も掲載されています。また、新田ユリさんの著書『増補改訂版　ポホヨラの調べ　シベリウス、ニルセンからラウタヴァーラまで　実演的！北欧名曲案内』［五月書房新社、2019年］は、シベリウスをはじめ北欧音楽の指揮経験も豊かな指揮者ならではの深い洞察も含めて、北欧音楽の魅力が美しく綴られています。日本シベリウス協会会長も務めるマエストラ新田は、常任指揮者も務めていた愛知室内オーケストラと共に、素晴らしいシベリウス演奏を重ねられてきたこと、愛知の皆さまならご記憶でしょう。シベリウスをお聴きになるならぜひお持ちになっていてほしい一冊です。

次回定期で指揮台に立つマエストロ大友も、長らくシベリウスを得意とされ、この交響曲第2番でも東京交響楽団との優れた録音を残しています［オクタヴィア／エイベックス］。—— 大友さんは長らくこの東京交響楽団で常任指揮者として活躍、古典はもちろん数々の英国音楽シリーズ、アダムズやマクミランといった現代音楽の優れた作曲家たちの日本初演など、豊かなレパートリーでオーケストラを牽引（現：名誉客演指揮者）してきました。

それだけでなく、京都市交響楽団常任指揮者（現：桂冠指揮者）、そして群馬交響楽団音楽監督を歴任して各オーケストラの転換期を力強く支え、新たな扉をひらいた功績も大。琉球交響楽団の音楽監督も長らく務めて沖縄のオーケストラ隆盛に力を注ぎ続け、国際音楽セミナーMMCJの創立音楽監督をA・ギルバートと共に務めて後進の育成にも熱心ですし、東京文化会館初代音楽監督として東京音楽コンクールの基盤を築いたほか、現在は（群響も新たな本拠地とする）高崎芸術劇場の芸術監督‥‥と、大友さんの歩みは〈オーケストラ〉だけではなく、〈オーケストラの生きる場所〉そして〈未来の音楽会を支える才能〉をしっかりと築いてゆく、熱い信念に貫かれたものであり続けています。

その音楽も、ノーブルな立ち姿から強くゆらめき立つような熱さ、確かな構築のなかに幅や明晰な深さを広げてゆくスケール感‥‥と、上質な魅力と情熱とが昇華したものと思えます。—— 次回、セントラル愛知響との共演でも、また楽団から常ならぬものが引き出されるでしょうし、その一期一会の音楽経験も、楽団に刻まれてゆく財産となるでしょう。

オーケストラがまたひとつぐっと成長する瞬間、その昂揚が生まれる瞬間を体感していただくためにも‥‥次回またこのホールでお会いいたしましょう！

やま の たけひろ
**山野雄大**

*Profile*

ライター［音楽・舞踊評論］。『音楽の友』『バンドジャーナル』など雑誌・新聞への寄稿をはじめ、NHK・FM「オペラ・ファンタスティカ」他ラジオ出演も。第一生命ホールでのコンサートシリーズ《雄大と行く　昼の音楽さんぽ》ナビゲーターを務めたほか、CD解説、オーケストラやバレエ公演の解説、歌詞対訳など多数。朝日カルチャーセンター新宿教室でバレエ音楽講座を開講中。